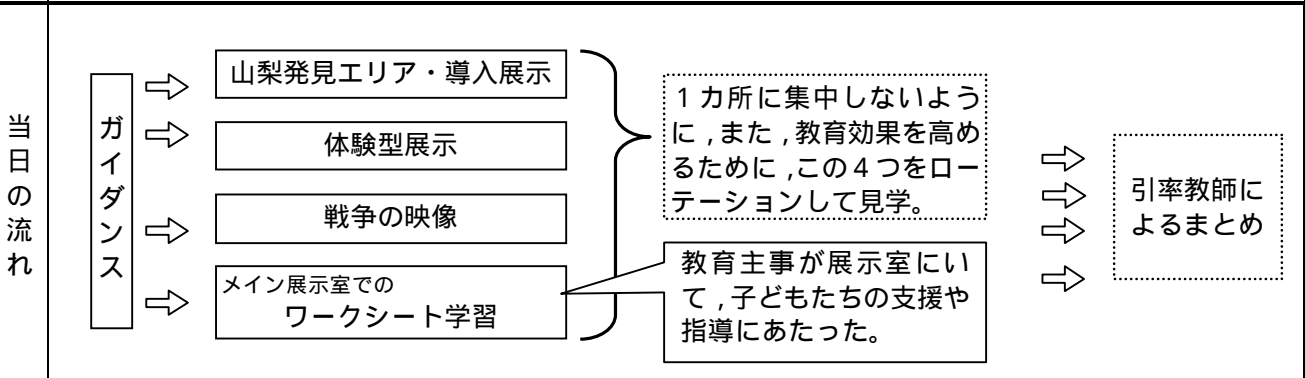


小6 社会(歴史)の発展学習として

常永小学校の6年生は、社会の歴史学習の一環として博物館を訪れ、見学した。大人数だと十分な見学ができないことが考えられるので、4つのグループに分けて、ローテーションで見学した。

事前 県博資料を使って、どんな物がどこにあるかの概要を説明した。また、児童を4グループに分け、県博も4コーナーに分け、ローテーションを組んで見学するという見学方法を説明した。次に、見学プリントを使って見学の方法について説明し、各コーナー毎の主な見学の視点を説明した。さらに、県博など公共施設利用上のマナーについて指導した。



ワークシートに関わる展示資料

田植えジオラマ
5年生の時に田植えもやっていた、祭りも体験していたので、とても親近感を持って見学していた。




城下町ジオラマ
様々な状況の人形があるので、それぞれの児童に、それぞれの発見があったようだ。見学時間が短く、じっくり見ることはできなかった。




ワークシートに関わる展示資料

体験工房
歴史学習の入口にいる小学校の児童にとって、体を通して歴史に触れようという博物館のコンセプトは非常に有効である。



養蚕農家ジオラマ
大きな農家で2階でカイコを飼っていた。絹糸や明治期の製糸工場の絵の展示とつなげて考えることができた。



事後 今回の見学に際しては、「しおり」を用意した。その「しおり」には、「問題」として、見学の視点が数多く乗せてあった。子ども達は、その見学の視点(=学習意図)に従い見学を行ったが、当然一人の獲得した情報には限りがある。そこで、各問題毎に、自分が見付けてきたり、聞いて来たりしたことなどの情報交換を行い、情報の不足分を補い合った。この学習は、学習班毎に行った。なお、「19 山梨と戦争」のコーナーの学習は、「総合学習」の平和教育へとつなげた。

一言 県立博物館を見学させる場合、以下の二点が非常に重要であると感じた。
 1点目は、見学の視点(=学習意図)を明確にして、子ども達に、見学に望ませること。今回は事前指導、学習問題(=見学の視点)を記した「しおり」の作成、見学直前の指導等を通して徹底して行った。
 2点目は、見学当日、すぐに見学を行わせるのではなく、教師が子ども達を集団で引き連れ、大まかに、どこに何があるのか、見落としてはいけないものなどを案内してから、班毎の見学に移らせた。
 いずれも、莫大な情報量を抱える県立博物館を、有効に利用するための補助指導であった。
 (常永小学校 深澤秀興)